

生消協 青果フォーラム報告

- (1) 10/3 (木)、TKP ガーデンシティ PREMIUM 秋葉原にて開催されました。今回は生産者 25 産地 55 名、パルシステム関係者 57 名の計 112 名の参加がありました。
- (2) 冒頭で大津代表幹事（無茶々園）、台風 15 号の影響による被害を受けた産地へのお見舞いと、パルシステム連合会で設置された「コア・フード利用推進タスク」への生消協からの参加などについて触れながら挨拶が行われました。引き続いて、小川幹事（JA つくば市谷田部産直部会）より、青果フォーラムは公開討論会という性格上、積極的な発言を期待したい旨趣旨説明がありました。
- (3) 初めに、「台風 15 号の産地被災状況報告」と「コア・フード、エコ・チャレンジの過去、現在、これから」について、パルシステム連合会産直部那須部長とジーピーエス第 2 事業部武藤部長より報告がありました。過去 4 年の販売推移や直近の実績などを踏まえた 2019 年下期に向けた販売計画が話され、参加者からは、コア・フードとエコ・チャレンジ生産の方向性について産地と組合員双方での検討、今後の物流コンテナ導入の進め方、台風などの災害時の備蓄、産地から組合員までの品質維持の方法、などについて意見・質問がよせられました。
- (4) 次に、「土着天敵の実験展開（2 年目）」について坂入幹事（八千代産直）から報告がありました。昨年引き続きの取り組みということで、昨年との比較や変更点、気温や日照時間のデータ比較なども踏まえながら、経過観察の様子について話され、結果として「天敵が住みやすい環境を作ることが薬剤の削減や労働力軽減につながる」と報告されました。
- (5) 最後に、パルシステム連合会山本顧問より、「種子法廃止による食と農の危機」と題し講演が行われました。改めて、種子法や種苗法の成り立ちや、日本政府の動きなどの含めながら、農業の大切さと各生産者が実施している農業の多様性を認め合える環境であることが今後大事になってくる、などについて話されました。
- (6) 最後に消費者からのコメントとして高橋副代表幹事（パルシステム千葉）より発言ののち、鳥居幹事（ジョイファーム小田原）よりまとめの挨拶があり閉会となりました。

